

(6) グループカウンセリング研究会

会 長 北代 大 (竹島小)
副会長 宗崎 幸枝 (具同小)
事務局 中山 加奈江 (東山小)

1. 研究主題 「人間関係を高める仲間づくりの研究」

2. 研究経過

| 実施年月日 | 研究のあらまし | 会場 | 備考 |
|-----------------|--|-------|-------|
| 令和5年 5月9日(水) | 四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画 | 中村中学校 | 27名参加 |
| 8月4日(金) | 四万十市教育研究会 夏季研修会 内容： エンカウンター演習・・・・・・・・ 講師 友永 しのぶ教諭(窪川中学校) | 具同小学校 | 26名参加 |
| 12月1日(金) | 第2回学習会 内容： カウンセリング練習・・・・・・・・ 講師 佐田 志保カウンセラー (四万十市教育委員会) | 具同小学校 | 12名参加 |

3. 各サークルで独自に項を起し取り組みを紹介

【第1回】『子どもたちが安心できる居場所づくりのための「仲間づくり活動」』（友永しのぶ先生）

(1) ○高知県の現状と仲間づくりの意義について

通常学級の指導に当たる全ての教員に「適切な実態把握」と「一人一人の教育的ニーズに応えること」が求められている。

○クラスワイドな支援・仲間づくりの必要性

学校・学級全体に対する予防的な第一支援が大切である。学級皆を繋げることで学級全体がポジティブになる。

○実際の子どもたちの変化

一言もしくは一行しか感想が欠けなかった子どもが、自分一人の思いから、周りを見ての感想が書けるようになっていた。



(2) やってみよう♪ (演習)

- ・ハイ・イハ・ドン
- ・イラスト伝言ゲーム
- ・バースディチェーン
- ・パイプライン
- ・ぱちぱちインパルス



バースディチェーン



パイプライン

【第2回】『カウンセリング演習』

◎カウンセリングとは、「問題を解決することではなく、相手が話を聞いてもらったと思えること」どのような聞き方をすればよいか、全体で検討しながら演習を行った。



4. 今年度の成果と課題

《成果》

- ・「仲間づくり」は、参加者が実際に活動し体験することでとても良い研修になった。また、学級の実態をきちんと把握することが大切で、実態に合わせた活動を行うことで教師や児童生徒に活かされ、信頼関係が構築されるということが分かり参考になった。
- ・仲間づくり活動を効果的に行うためには、その学校の子どもの実態や集団の強み・弱みを把握し「ねらい」をもって活動を計画する必要があると学んだ。各活動にはそれぞれ意味があり、活動を行う順番にも意図があることを知った。
- ・「カウンセリング」では、話し手、聞き手、観察者それぞれの役をやってみて、傾きや相槌、表情、細やかな仕草が、話し手が悩みを相談しやすい、相談して良かったと思ってもらえる雰囲気づくりに繋がるのが分かった。また、話し方だけでなく、座る位置なども話し手がリラックスできる環境づくりに繋がると分かった。
- ・「聴く側はあなたのことを受け入れているよという気持ちを持つことが大事」と言われていたので、日々の児童との関わりの中で大切に持っていたいと思った。

《課題》

- ・エンカウンターはある程度広さも必要だが、猛暑の中体育館は厳しいものがあった。
- ・研修会を2回開催したが、多忙期もあって人数も少なかった。2回目について検討する必要がある。